

団体名	竹原市	所属	企画政策課	他団体等との連携	大学等教育機関
連絡先	秘書企画担当 (0846)22-0942				

取組事例名	大学等連携交流事業	取組期間	平成25年度～
--------------	-----------	-------------	---------

取組の概要 ～ 市民と学生の交流促進

本市の周辺には様々な学術研究機関があるが、本市がその立地特性を十分に活かしているとは言えない現状から、市民と学生の交流による地域のにぎわいづくりや活性化を推進するため、連携交流事業に取り組んでいる。

取組の背景 ～ 立地特性を活かした取組の不足

本市の周辺には、広島大学をはじめ県立広島大学、広島商船高等専門学校などの学術研究機関が複数あり、平成20年3月には広島商船高等専門学校と包括協定を締結するとともに、他の大学とも様々な事業で関わりをもってきた。

しかし、その内容は各種委員会の委員の委嘱や調査等の委託が大半であり、学生と市民の交流機会はほとんどないのが現状であった。

取組のねらい ～ 地域のにぎわいづくりや活性化の推進

学生等と市民との連携・交流により、地域のにぎわいづくりや活性化を推進するとともに、学生等に竹原の魅力等をPRしていく。

取組の具体的内容 ～ 交流促進に向けての事業実施

大学との調整(マッチング)が可能となったものについて、取組を実施(平成25年度実績)

1 海の生き物観察体験事業(連携先 広島大学)

小・中学生を対象とした海洋生物の採集・観察等体験イベントの実施

2 忠海港「みなと賑わいづくり」創出事業(連携先 広島国際大学)

「忠海港みなとまちづくり計画」策定に向けての意見交換・実地調査及び地元イベント等への参加

3 広島大学図書館における「竹原PR展」の実施

学生にまず竹原を知ってもらうために、広島大学図書館において、竹原の歴史文化、食・特産品などを紹介する「竹原PR展」を開催



(竹原PR展)



(海の生き物観察体験)



(みなと賑わいづくり)

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 参加者の確保

事業を開始するに当たって、「そもそも事業自体に参加していただけるのか」、「他県出身者も多い大学生がどれだけ本市のことを知っているのか」という懸念があった。

創意工夫した点 ～ 市民、学生の興味関心を引き出す

1 市民の関心度向上

主には竹原市内に施設を有する大学と連携した体験活動や地元団体主催のイベント等を中心とすることにより、市民が興味関心を持ちやすいものとした。

2 学生に対するPR

学生に対するPRとしては、より竹原を身近に感じてもらうため、観光やレジャー、食、アニメといった比較的学生が興味を持ちやすい分野を重点的に実施した。



(竹原PR展)

取組の成果(効果) ～ 地域を知り、考える「きっかけ」づくりとして

1 市民の関心度向上

平成25年度は取組初年度ということもあり、試行的な意味合いも強いが、事業参加者からは、この事業を通して地域の自然環境、生き物などに興味をもったという意見が寄せられており、市民が身近な地域について考えるきっかけとなっている。

2 学生に対するPR

「竹原PR展」についても、「竹原を知ることができた」「意外と近いので行ってみたい」といった意見が寄せられており、学生が竹原を知るきっかけになっている。

今後の展開 ～ 他大学、他分野への展開、地域の賑わいづくりへの昇華

現段階では、まだ「きっかけ」をつくったに過ぎず、今後の取組により「地域の賑わいづくり、活性化」へと昇華させていくことが必要である。

1 包括協定等の締結

より幅広く連携交流を図っていくため、大学等との包括協定等の締結を検討していく。

2 他分野、他大学等への拡充

平成25年度実績で2分野のみの連携となっているが、他分野、他の大学等への拡充を検討していく。

3 学生等への周知

学生に竹原をより知ってもらうための広報活動を更に充実させる。

4 継続性のある取組の実施

学生が愛着を持ち、より積極的に取り組めるよう、複数年度継続的に関わるができるような事業(例えば「地域づくり」といった分野)を実施する。

他団体へのアドバイス ～ お互いの利益のために

事業実施による市のメリットだけを追求するのではなく、大学側のメリット(大学の活動を広く知ってもらうきっかけづくり、事業そのものを研究テーマとすることができる等)をきちんと提示することが重要である。